

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**【学校の現状】**

創立139周年を迎え、延べ1万人を超す卒業生を輩出している歴史と伝統のある学校である。学校全体が落ち着いた雰囲気の中で教育活動が展開されている。健康面・学習面・生活面に配慮を要する児童に対して全職員が共通理解を図り、組織的に対応していくことができている。教員・職員一人一人が、全校児童へ積極的に関わり、熱意をもって教育活動にあたっている。学校に対する地域・保護者の期待は大きく大変協力的である。実践授業研究を軸としたOJTを有効に活用し、さらに個々の専門的な教科の知識や技能、指導力を高めていく必要がある。

【前年度の成果と課題】

1 学力向上

目標通過率を国語75%、算数75%に設定し、4月の区学力調査では国語81.0%、算数78.2%の通過率で、区の平均を国語3.9ポイント、算数1.0ポイント上回った。個々の様々な記録を基に課題や伸びを把握し、組織的に指導する体制づくりが構築できている。パワーアップタイムや弘道タイムは、全校統一した内容で取り組んだ。月・火・木曜日30分間以上の放課後補充教室の実施と昨年度途中より始めた自主学習ノートを活用した土・日曜日の家庭学習は全校統一の取組ができ、子どもたちの学習意欲の高まりとともに保護者の理解も得られている。

2 豊かな人間性の育成

達成基準を学校評価項目「自分にはよいところがあると思う」と答える児童75%以上に設定し、肯定的な評価86.7%を得た。にこにこ班（1つの班に1～6年生までの児童が所属する縦割り班）活動では、毎月1回の班遊び、年3回の班給食、10月に低・中学年遠足とにこにこまつりを実施した。6年生が班長となり、遊びや行事を通して学年の枠を超えた子どもたちの交流ができた。朝遊びや休み時間、放課後子ども教室でも他学年と一緒に群れ遊びをしている姿を多く見るようになった。

3 体力向上

達成基準を「運動が好き」と答える児童90%以上、「外遊びをした」児童80%以上に設定し、運動が好き87.7%、外遊び89.3%を達成した。人工芝に伴う運動内容の工夫が大きな課題であったが、オリンピック・パラリンピック教育の推進と併せてボールや運動器具を整備することができ、運動に親しめる環境の確保ができた。弘道の森や池の再生プロジェクトを立ち上げ順調に整備が進んでいる。行事や運動仲間ごとに個人体力カードを活用して年間を通した体力向上の取組ができ、自己の運動記録に挑戦する意欲を高めることができた。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項－1 確かな学力の向上**

- 朝学習、授業、放課後教室の系統的で効果的な内容と運用
- 小・小連携と校内研究による教師の授業改善、足立スタンダードの徹底
- 毎日の家庭学習の徹底と自主学習及び読書活動の推進

重点的な取組事項－2 豊かな人間性の育成

- にこにこ班（縦割り班）活動の充実
- 幼稚園・保育園・中学校・高等学校・PTA・地域との交流
- 学びに向かう力・人間性等の育成

重点的な取組事項－3 健康の増進・体力の向上

- 外遊びの奨励と休み時間の確保
- 年間を通した体力向上の取組
- 自己の運動記録に挑戦する意欲の高揚

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１ 確かな学力の向上

- 平成２９年度の区学力調査の通過率は国語８７．７％、算数８３．１％となり、区平均を国語は５．０ポイント、算数は１．５ポイント上回った。
- 漢字・読解・言語事項、計算・文章問題の定着度テストを毎週火曜日・金曜日の朝、金曜日の５校時に実施してきた。また、毎週実施の単元末の評価テストや定着度テストにおいて、８０％未満は放課後補充教室で再テスト及び個別指導を行った。
- 年間６回の小・小連携研究協議会を実施し、校内研究では全１２学級の理科・生活科の公開授業と、低学年の４学級の図画工作科の公開授業を行った。また、全教諭が専門とする教科の公開授業を校内研究とは別に行った。その際、学年主任や教科主任による指導案の検討・指導、管理職による授業観察と事後指導を併せて行った。
- 家庭学習を推進するため、平日に担任が与える１０分間×学年の課題学習を全校統一で実施した。休日に自主学習ノートを活用した家庭学習１日×２ページを全学年の児童に課した。テストやプリント直しの青ペン百点の徹底も行った。
- 読書活動の推進のために、各学年の読破目標を設定し、常に手元に読みかけの本を携帯させた。目標達成の児童は、表彰カードを掲示して読書意欲を高めた。
- １２月に行った再学力調査では、国語の通過率が８０．８％、算数の通過率は、８０．０％となった。今年度、東京都教育委員会持続可能な社会づくりに向けた教育推進校の指定を受け、資質・能力を養うことに力を入れて取り組んだ結果、目標とする８０％を上回ることができた。算数については、数学的な考え方を伸ばすために、計算練習を中心としたテストだけでなく、立式や考え方を表現する問題にもさらに取り組んでいく必要がある。国語については、読む能力を伸ばすために、今まで以上に読書環境の整備を行う必要がある。
- コミュニティ・スクール事業で、弘道の森・池の再生プロジェクトを立ち上げ２年目となり、整備も一層進み、児童が活用するようになっている。理科・生活科や総合的な学習の時間、特別活動などの学習で、樹木のネームプレートや観察池を活用できるようになり、都会にある学校でも自然から学べる環境が整い始めた。
- 今年度から東京都「緑の少年団」として環境保全に取り組むようになり、今まで以上に自然への興味関心が高まるとともに、自然保護について考えるようになった。

重点的な取組事項－２ 豊かな人間性の育成

- １つの班に１～６年生までの児童が所属する縦割り班を編成した。６年生が班長で、毎月１回の縦割り班遊びや、年３回の縦割り班給食、縦割り班での弘道まつりを実施した。事前に縦割り班会議をもち、遊びや行事の計画・準備を児童主体で行った。
- 園児を運動会・音楽会等に招待した。１年生と園児の授業体験や給食体験を年２回実施した。中学生の職場体験生徒との交流や、高校生による夏季休業中の奉仕活動の機会をつくり、児童と交流させた。
- 授業や学校行事が終えた後は、必ず振り返りを行い、季節ごとの俳句、活躍を讃える川柳作品作りに取り組んだ。また、児童の作品は全校一斉に掲示し、互いに鑑賞し合う場を設けて認め合う心の醸成を図る一助ができた。各学級の代表作品は、職員室前に掲示した。

重点的な取組事項－３ 健康の増進・体力の向上

- 休み時間に避難訓練などの学校行事を実施した際には、必ず代替の時間を設定し、遊びや運動の時間を確保した。朝遊び１５分間、中休み２０分間、昼休み２０分間を年間通して確保できた。
- 雨が降っていなければ、校庭が濡れていても水たまりができない人工芝なので外遊びをさせた。
- 雪の日は、外遊びの時間を臨時的に設定し、人工芝の校庭で十分に遊ばせた。
- 運動が好きと答えた児童は８９．６％、外遊びをしている児童は７８．１％を達成した。
- 休み時間にできる運動や遊びの紹介を体育朝会で行った。季節や行事に合わせた各種運動旬間を設定して全校で取り組んだ。区主催のスポーツ大会参加に向けて、高学年希望者の練習指導を行い、様々な運動の機会を提供した。
- 体力テスト・水泳・持久走・縄跳び等の個人記録を６年間蓄積記録した体力カードを継続活用し、個人の体力向上への意識付けを図った。学校最高記録（弘道ギネス）を職員室前に掲示したり、行事や運動旬間ごとに学校記録を掲示したりして、運動に向かう意欲を高めた。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

- 今年度より「東京都教育委員会持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」として研究を進めた。今年度は、「見方・考え方を働かせて資質・能力を養う理科・生活科学習 ～観る・考える・つなげる学習を通して～」を研究主題に据え、児童の資質・能力の向上に取り組んできた。資質・能力を養うために、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を追究し、自ら問題解決の活動ができる児童の育成に努めた。また、教員の授業力向上策の一つとして、本校の研究成果を冊子「見方・考え方に基づいた予想される子どもの反応例集」としてまとめ、子どもが働かせる見方・考え方を全国に先駆けて情報発信を行うことができた。これからも授業力向上に努め、児童の資質・能力の育成を図る。
- 今年度も、放課後補充教室を毎週3回（月・火・木曜日 30分～45分）実施した。担任から出される毎日の課題を基にしたワークテストを実施し、その結果が本校の目標値80%に満たない児童に対して、基礎的・基本的な内容を個別指導し、基礎学力の定着を図れた。朝学習では漢字と計算を中心とした重点的な学習に取り組ませることができた。また、金曜日5校時を弘道タイムとし、国語と算数の弱点克服を目的とし課題解決にあたった。今年度は特につまずきの多い算数について重点的に指導を行った。具体的には、少数・分数の計算や、体積・面積、量と比例などの問題を中心に系統的な指導を行うことができた。いっそうの学力定着を図るためには、家庭学習も重要であり、自主学習ノートの活用など、ご家庭でのご協力もお願いしたい。
- 豊かな人間性の育成を目指し、取り組んできたものに縦割り班（にこにこ班）活動が挙げられる。活動を通して、互いを思いやる気持ちや大切に思う気持ちを深めることができた。にこにこ班まつりでは、活動の発表の場として、保護者・地域の皆様にも参観いただき、高い評価を得たことで、児童の成就感・達成感を高めることにつながった。今後も、PTA・開かれた学校づくり協議会・学校運営委員会、関係諸機関の協力を得ながら、全教育活動を通して豊かな人間性を育てる指導を継続していく。
- 人工芝の校庭において、登校直後から朝遊びの時間（8時からの15分間）を設定し、走ったり転がったり人工芝の特性を生かした遊びを実施し、運動への興味関心を高めると共に体力向上を目指すことができた。また、学校最高記録（弘道ギネス）を示すことで、運動への意欲が喚起され、記録への挑戦を目指す児童が増加した。さらに運動能力向上とクラスの団結力を高めるために持久走大会や長なわ大会を保護者・地域の協力のもと実施することができた。今後も様々な運動の機会を増やしていく。特に、跳ぶ力・投げる力・持久力に対しては、昨年度に引き続き、重点的な指導を行っていく。さらに体力向上を目指すだけでなく、心身共に健康な児童の育成を推進していく。

2. 平成29年度の重点的な取組事項

＜達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る＞

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
文章を書く力、文章を読み取る力、計算力、文章問題を解く力の育成	区学力調査での目標通過率（学校平均）を国語80%、算数80%	平成29年度区学力調査の通過率は、国語87.7%、算数83.1%となり、区平均を国語5.2ポイント、算数1.5ポイント上回った。	12月に行った再学力調査でも、国語の通過率が82.2%と目標値を2.2ポイント、算数の通過率は、80.6%と目標値を0.6ポイントと上回るなど年間を通じて80%の通過率を維持した。しかし、時間内に解答したり、問題の意図を素早く問題文から読み取ったりするなどテスト形式の解答に慣れさせ、得点力を上げる時間が十分に確保できなかった。今後、国語・算数ともに、さらなる資質・能力を養うために、自ら問題解決ができる児童の育成に取り組むことが課題である。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
朝学習、授業、放課後教室の系統的で効果的な内容と運用	毎週火・金曜日の朝、金曜日5校時に定着度テスト、月・火・木曜日の放課後に補習。	漢字・読解・言語事項、計算・文章問題の定着度テストを毎週実施し、80%未満は放課後補充教室で再テスト及び個別指導	定着度テストを毎週火曜日・金曜日の朝、実施した。金曜日の5校時は国語、算数の課題について定着する学習を行った。単元末の評価テストや定着度テストにおいて、80%未満の児童は、放課後補充教室で再テスト及び個別指導を行った。	放課後補充教室など、補充学習の場を計画的・継続的に全校体制で設定することや、再テストを定期的の実施することで、基礎学力の定着を図る努力を重ねることができた。計算や文章問題だけでなく、立式の考え方を書き表す問題にも取り組み、自ら問題解決ができる児童の育成に取り組むことが課題である。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小・小連携と校内研究による教師の授業改善、足立スタンダードの徹底	年間6回の小・小連携研究、全学級の理科・生活科研究授業と各専門教科公開授業。	本校3回、足立小3回の連携研究会、専門教科の公開授業と校内研究授業、管理職による指導案指導、授業観察、事後指導。	全学級、理科・生活科・図画工作科の公開授業を行った。 また、それ以外にも各教員が専門とする教科の公開授業を全教員が年2回行った。	全学級担任と専科による研究授業は事前授業を含め45回の公開を行った。また、連携校での研究授業にも参加し、指導力の向上に努めた。 足立スタンダードに準拠した指導案の作成を行った。	◎
毎日の家庭学習の徹底と自主学習および読書活動の推進	平日の課題学習、休日の自主学習ノート1日2ページ、年間読書目標80%以上達成。	平日与える漢字と計算の課題と休日の自主学習、青ペン百点が取れるまで確実な間違い直し、常に手元に読みかけの本を携帯。	家庭学習を推進するため、10分間×学年の課題学習の設定、テストやプリント直しの徹底を図ることができた。平日・休日の家庭学習をしてきた児童は75.8%となった。 読書については、読書旬間後に読書調査を行った。また読書の達成状況を職員室前の廊下に掲示した。 読書名人は、42.2%、読書達人は、37.3%であった。	全ての学年で、音読・漢字・計算の課題学習を行った。学年に応じて時間を設定することを年度当初に保護者に伝えることで、家庭との連携を図った。 年間の読書目標については、読書名人として、低学年100冊。中学年5000ページ。高学年6000ページ。読書達人として、低学年150冊。中学年7000ページ。高学年10000ページ読破を目標として設定した。個人での目標と共に、学年や学校全体での共通目標を設定することでさらに意欲的に読書を行うようになった。 読書調査については、読書旬間後、児童全員が読書をしている結果が出た。また、児童一人一人のおすすめの本を紹介するカードを掲示した。	○

重点的な取組事項－２ 豊かな人間性の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
人との関わりを通して思いやりの心と責任感の育成 自尊心、自己肯定感の醸成	「自分にはよいところがあると思う」と答える児童８０％以上	「自分にはよいところがあると思う」と肯定的な評価９２．５％を得た。 その他「学校に行くのが楽しい」９２．３％、「大人になった時の夢や目標がある」８７．８％と肯定的な回答の割合が区平均をすべて上回っている。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を研究してきたことにより、学びに向かう力や人間性等の涵養が全教科・領域での授業を通して着実に図れ、子どもの姿で表出することができた。	◎

目標実現に向けた取組	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
にこにこ班（縦割り班）活動の充実	毎月１回の縦割り班遊び、年３回の班給食、１０月に低・中学年遠足と、にこにこまつりの実施	１つの班に１～６年生までの児童が所属する縦割り班を編成、６年生が班長となり７回の班長会議で計画準備した遊びや行事を通して異学年との交流	毎月１回の縦割り班遊び、年３回の縦割り班給食を実施することができた。 低学年・中学年遠足は、１０月に実施できた。 １１月に、にこにこまつりを児童が中心となって実施することができた。	班をまとめる６年生は責任感を強くもつことができた。上学年は、下学年に対して思いやりをもって接することの大切さと、その難しさを知ることができた。下学年は、上学年に対して尊敬する心が育ち、さらに将来への展望をもつことができた。今後も縦のつながりを大切に活動の場面を設定していく。	◎
幼稚園・保育園・中学校・高等学校・ＰＴＡ・地域との交流	園児を学校行事に招待２回、幼・保・中・高との交流会４回、ＰＴＡ・地域行事の参加	園児を運動会・音楽会への招待、１年生と園児の授業・給食体験、職場体験生徒との交流、高校生の奉仕活動	幼稚園・保育園との連携は、各園の協力もあり、有意義に実施できた。中学生と６年生との交流、高校生の奉仕活動も予定通り実施できた。	交流活動を通して思いやりや責任感を育成することができた。それぞれの交流活動は念入りに計画を立て、担当者や細部を詰め、実施できた。人との関わり合いの取組は今後も積極的に継続していく。	○

目標実現に向けた取組	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学びに向かう力・人間性等の育成	学習や生活での振り返り活動を全授業・行事等で実施、標語や俳句、川柳づくりを全学年実施	めあてや解決の見通し、結果の振り返りを重視した教育活動、人権標語、季節ごとの俳句、活躍を讃える川柳作品を廊下に掲示	学級や一人一人のめあてを適切かつ明確に設定することで、その達成に向けて意欲的・積極的に学びに向かわせることができた。 また、授業や行事の後、振り返りを行い、次への課題を明確にすることができた。 意図的に振り返りの時間を設定し、褒め合い、認め合うことで自他の良さに気付かせるとともに、自己肯定感の醸成につなげることができた。 人権標語は全員が取り組んだ。川柳も、運動会と音楽会時に実施した。	個人のめあて設定にあたっては、個々の現状に応じた設定が必要であり、個々の現状把握とその分析が課題である。個に応じためあて設定は、学びに向かう力の育成には不可欠であり、これからも、適切なめあての設定を継続して指導していく。授業や行事の後に、十分な振り返りを行うことが、次への大切なステップとなる。よって振り返りの方法について検討することが今後の課題である。 自尊心や自己肯定感の醸成に向けて、授業や行事の中で、意図して振り返りの時間を設定し、指導にあたることが課題である。 人権標語は、いじめをなくす意義ある取組だった。今後も、PTA・開かれた学校づくり協議会、関係諸機関の協力を得ながら、全教育活動を通して豊かな人間性を育てる指導を継続していく。	◎

重点的な取組事項－３ 健康増進・体力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心身ともに健康な子どもの育成	運動が好きと答える児童８５％以上、外遊びをした児童９５％以上	運動が好きと答えた児童は８９．６％ 外遊びをした児童は７８．１％となった。	「外遊び」は好きであり、「運動」への関心も高く、興味をもって取り組む児童が多い。 校庭が人工芝であるため、けがをしにくい環境である。 今後も、具体的な取り組みを通して、児童の運動好きを増やしていきたい。	○

目標実現に向けた取組	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
外遊びの奨励と休み時間の確保	雨天時以外の朝遊びと休み時間に外遊びをした児童 95% 以上、休み時間カットゼロ。	朝遊びは、8時から15分間、中休みは、20分間、昼休みは20分間の確保。にこにこ山・弘道の森・ビオトープ・池・遊具の整備。	年間を通して、達成基準をクリアし、十分な遊びや運動時間の確保ができた。 弘道の森や池の整備を昨年引き続き進めることができた。	人工芝の特性を生かし、体育学習が安全にけがなく実施された。また、雨の後に水たまりができないので、外遊びを十分に行わせる事ができた。同様に雪の日も外遊びを実施することができた。 弘道の森に枯葉を集め、低学年を中心に枯葉の中で遊ぶことができた。教材池の水生植物や魚を観察しながら遊んでいた。	○
年間を通した体力向上の取組	弘道サーキットの改善、体育朝会6回、弘道運動の活用、区主催のスポーツ大会すべて参加。	休み時間にできる運動や遊びの紹介、季節や行事に合わせた各種運動旬間の設定、高学年希望者の練習指導と大会参加	様々な運動を行う機会を提供するため、区主催のスポーツ大会に参加することができた。また、体育集会として、休み時間にできる運動や遊びの紹介、季節や行事に合わせた各種運動旬間を設定し、体力向上に努めることができた。	5月、2月には長なわ大会、9月には校内水泳記録会、12月には持久走大会、1月には短なわ検定を実施することができた。 長なわ大会の取組では、区の目標回数を半数以上のクラスが達成できている。 持久走大会では、コースを荒川河川敷とし、保護者・地域の声援のもと、児童同士も応援する中で、児童を走らせることができた	◎
自己の運動記録に挑戦する意欲の高揚	全児童が年間を通した個人の体力カード活用、行事や運動旬間ごとに学校記録の更新	体力テスト・水泳・持久走・短なわ跳び・長なわ跳び等の個人記録を6年間蓄積、学校最高記録（弘道ギネス）を昇降口に掲示	個人の記録を6年間記入できる体力カードを活用し、体力向上への意識付けを図った。また、行事や運動旬間ごとに学校記録を掲示し、取組への意欲を高めた。	体力調査の結果やなわ跳びなどの個人記録は、体力カードに記入することで、自分の記録を高めようと意識付けることができた。弘道ギネスとして、長なわや持久走の記録を掲示して、意欲を高めることができた。	◎

3. 学校活動全般について

今年度も「知・徳・体」の調和がとれた児童の育成を目指して教育活動を推進してきた。また今年度から2年継続して東京都教育委員会持続可能な社会づくりに向けた教育推進校として、「見方・考え方を働かせて資質・能力を養う理科・生活科学習 ー観る・考える・つなげる活動を通してー」を研究主題として取り組み、見方・考え方に基づいた授業を提案し、児童の資質・能力の向上に努めてきた。

課外活動では、吹奏楽部は各種大会に積極的に出場し、実力を培ってきた。また、地域のお祭りなどにも参加し地域貢献も果たした。水泳、陸上、バスケットボール、サッカーなどは、シーズンになると有志児童によるチームが結成され、教員が早朝練習、放課後練習を実施し、区内でも高成績を残している。また、百人一首大会、環境かるた大会等にも参加し、文化面・運動面ともに、児童に多様な活躍の場を設定し、一人一人の可能性を広げる教育活動を展開している。

新1年生が小学校生活に早く慣れるようにするために、幼・保・小の連携を深めている。今年度も、幼稚園と保育園が合同で、給食をはじめとした小学校生活体験をしたり、授業の体験をしたりして、園児・保護者が早く本校になじめるよう工夫している。

教員の研修として、足立小学校との小・小連携研究協議会を行った。年間6回、協働して研究を行ったことは、本校教員の授業力向上につながっている。

今後も、保護者や地域の方々から温かいご支援・ご協力をいただきながら、家庭・地域の皆様から信頼される教員を育てていきたい。また、地域での子どもたちの生活について、家庭・地域とより一層の連携を図り、皆様の期待に応えられる教育を提供できる学校にしていきたい。